

「イスラーム世界における哲学—当時と現在」(オンライン)
で発表

澤井 真

5月23日、ドイツのフライブルク大学を中心としたイスラーム研究ネットワークから招聘を受けて、“What is Philosophy? Re-orienting Philosophy through Toshihiko Izutsu's Oriental Philosophy”(「哲学とは何か? 井筒俊彦の東洋哲学を定位し直す」と題した研究発表を行った。まず、大淵久志氏(フライブルク大学博士課程)が井筒俊彦の生涯や思想的特徴について説明した。その後で、澤井が、井筒俊彦の東洋哲学がイスラーム哲学を基盤として構想されたことを説明した。そのうえで、井筒俊彦が構想した「世界哲学」という言葉を手がかりとして、井筒が「哲学」という概念をいかに理解したかについて、西田幾多郎を中心とした京都学派との比較から考察した。

発表後のディスカッションでは、これまで西洋哲学を中心に指してきた「哲学」を、イスラームをはじめとした東洋の諸思想に組み込んでいくことができるかについて討議を行った。

第64回印度学宗教学会学術大会で発表

澤井 真

5月27日と28日、東北大学文学研究科を会場に、第64回印度学宗教学会学術大会が開催された。コロナ禍においてオンラインでの開催を余儀なくされていたが、今年度は3年ぶりの対面開催となった。

今年度は2日間合わせて計14本の研究発表が行われた。さらに、1日目午後には東北大学大学院生によるポスター発表が行われ、学会参加者からポスター発表者とさまざまな意見交換がなされた。なお、天理関係者の研究発表は以下の通りである。

澤井義次(天理大学名誉教授)

聖典理解とその視座—井筒俊彦とウィルフレッド・C・スミスの宗教論—

澤井真(天理大学おやさと研究所・講師)

イスラーム神秘主義における権威論

澤井治郎(天理大学人間学部准教授)

中山正善・天理教二代真柱による「おさしづ」研究

久保大生(東北大学大学院修士課程)

「信にある存在」としての人間とその根柢—諸井慶徳の教義学研究をめぐって—(ポスター発表)

2023 年度公開教学講座 のご案内

— 信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ(9) —

2023年度の公開教学講座は、以下の日程で
オンライン配信いたします。

- 第1回 6月 井上昭洋所長
167話「人救けたら」
- 第2回 7月 尾上貴行研究員
168話「船遊び」
- 第3回 9月 金子昭研究員
122話「理さえあるならば」
- 第4回 10月 澤井治郎研究員
146話「御苦労さん」
- 第5回 11月 島田勝巳研究員
165話「高う買うて」
- 第6回 1月 堀内みどり主任
113話「子守歌」

2022 年度「教学と現代」

3月25日に開催された2022年度「教学と現代」 「元の理」を描く—生命・ジェンダー・芸術—
をオンラインで配信しています。

研究所ホームページよりご視聴ください。

グローバル天理

第24巻 第7号 (通巻283号)

2023年(令和5年)7月1日発行

© Oyasato Institute for the Study of Religion
Tenri University

発行者 井上昭洋

編集発行 天理大学 おやさと研究所

〒632-8510 奈良県天理市杣之内町1050

TEL 0743-63-9080

FAX 0743-63-7255

URL <https://www.tenri-u.ac.jp/oyaken/index.html>E-mail oyaken@sta.tenri-u.ac.jp

印刷 天理時報社

Printed in Japan